

議題2の追加質問について

1. 東京、大阪、日本全体で、過去1週間に確認された感染者の中で、それぞれデルタ株、オミクロン株は、何人ですか？

(回答)

- 12月28日(火)から1月3日(月)までの新型コロナウイルス感染症の東京都、大阪府、全国の新規感染者数の累計は、以下のとおりです。
 - ・東京都：530人
 - ・大阪府：448人
 - ・全国：3,198人

- また、12月28日(火)から1月3日(月)までにオミクロン株が確定した患者(空港検疫を除く)の累計は、以下のとおりです。
 - ・東京都：33人
 - ・大阪府：68人
 - ・全国：322人

- 12月28日(火)から1月3日(月)までにオミクロン株が確定した、空港検疫(検疫検査時に陽性だった方のほか、宿泊施設での待機が必要な国・地域から入国後、待機中に陽性が判明し、オミクロン株と確定した方)でのオミクロン株の確定患者数は全国で355名です。

- なお、「新型コロナウイルス ゲノムサーベイランスによる系統別検出状況(国立感染症研究所)」(2021年12月24日現在)(第65回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(令和3年12月28日)資料によると、オミクロン株以外の新型コロナ患者の90%以上はデルタ株となっています。

2. 最近の感染拡大は、オミクロン株による拡大ですか、デルタ株も拡大しているのですか。

(回答)

- オミクロン株の患者のほか、デルタ株等の患者も増加している地域があります。

3. オミクロン株は、デルタ株と比べて、感染力（感染スピード）、入院リスク、重症化リスク、死亡リスクは、それぞれ何倍あるいは何分の1か。日本のデータのみならず、アメリカとイギリスの上記の点についてのデータを配布して下さい。

（回答）

○ オミクロン株の流行が先んじて報告された南アフリカでは、高い実効再生産数が報告され、英国でも倍加時間の短縮や感染者数の高い増加率が報告されています。海外から報告された集団発生事例での高い発病率や、デルタ株よりも多くの家庭内二次感染例が報告されたことも伝播性の増加を示唆しています。ただし、観察集団の免疫状況や感染予防行動等の違い、オミクロン株同定のための検査戦略などの影響等も含めて、解釈には依然として慎重を要します。また、世代時間や潜伏期間がデルタ株と比較して短縮している可能性を示す所見があることにも留意する必要があります。

○ 国内で経過観察されているオミクロン株感染例の初期の事例 109 例については、94% (103/109) が無症状ないし軽症で経過しております。海外の報告では、英国や南アフリカ等からデルタ株と比較した入院や重症化のしやすさの違いについての暫定データが報告され、デルタ株と比較してオミクロン株では重症化しにくい可能性が示唆されています。

ただし、これらの報告では、オミクロン株感染例が若年層で多い、自然感染やワクチン接種による免疫の影響が考慮されていない等の様々な制限があること、重症化や死亡の転帰を確認するには時間がかかることを踏まえると更なる知見の集積が必要です。また、重症化リスクがある程度低下していたとしても、感染例が大幅に増加することで重症化リスクの低下分が相殺される可能性も考慮する必要があります。

（参考）国立感染症研究所「SARS-CoV-2 の変異株 B. 1. 1. 529 系統（オミクロン株）について（第5報）」

4. 今まで日本で確認されたオミクロン株は、合計何人で、そのうち、無症状軽症、中等症、重症は、何人ですか。

7. 今、日本で重症化している患者の中に、オミクロン株の感染者はいますか。重症患者の中に、オミクロン株の感染者がいないことは確認できていますか。

(回答)

- 1月3日21時時点でオミクロン株が確定した患者は、
 - ・空港検疫で602人
 - ・水際関係（都道府県発表）で96人
 - ・上記以外で295人合計で993人になります。

- 国内のオミクロン株の患者について、重症者となったケースはこれまで確認されておりません。

8. オミクロン株の陽性者の全員入院の方針を見直すと報道されているが、その見直しにより、オミクロン株のどのような陽性者が、入院、宿泊療養、自宅療養になるのか、その判断基準を教えてください。陽性者が自宅療養することも可能になるのですか。

(回答)

- 現在、検討中でございます。